

平成 23 年度第 3 回機器及び安全に関する委員会議事録

日時：平成 23 年 12 月 27 日（水） 17:00～19:00

場所：日本超音波医学会事務局会議室

参加者（12 名、敬称略）：秋山いわき、石原謙、梅村晋一郎、工藤信樹、近藤隆、飯島尋子、鎌倉友男、桑田知之、上妻志郎、内藤みわ、名取道也、新田尚隆（記録）

オブザーバ：谷口信行（自治医科大学）、鈴木浩之（日立アロカメディカル(株)）、鈴木一弥（財団法人労働科学研究所）

議事

1. 前回議事録確認（資料 1, 2）

- ・ 第 2 回議事録について確認した。

2. 妊娠早期のパルスドプラ使用に関する WFUMB 会告の日超医での取り扱い（資料 3, 4）

- ・ オピニオン（資料 3）に関し、妊娠早期の診断・研究についての歴史的経緯が説明された。
- ・ WFUMB 会告を日超医会員に周知することの妥当性、周知の方法について議論が行われた。議論の結果、安全に関して啓発・教育することも日超医の重要な役割であり、日超医会員の利益になるのであれば周知すべきという意見でまとまり、周知を行うこととなった。
- ・ 原文と邦訳をホームページに掲載する。学会誌にも掲載する。解説を加えることも検討する。学会誌への具体的な掲載法は、産婦人科の委員 3 名で検討する。
- ・ 実効性を持たせるために、他の学会にも、日超医のステートメントを周知してもらうことを検討する。
- ・ 安全に関する啓発・教育を目的としたアンケートを次年度学術集集会にて実施する。

3. 精度管理手法小委員会報告（資料 9）

- ・ 診断上問題となる劣化画像の収集を進めており、今年度中にまとめる予定。
- ・ 他団体（日本乳腺甲状腺超音波診断会議精度管理研究班、医学物理学会、日本放射線技師会）の精度管理状況の把握・情報交換を行った。
- ・ 次回委員会にて、収集した画像を検討し、会員向け資料作成を行う予定。これをもって本小委員会活動を終了する予定。

4. 音響放射力の生体への影響検討小委員会報告（資料 6, 10）

- ・ 科研費が追加採択されたこと及び実施計画（資料 6）の説明がなされた。（委員長）
- ・ これに伴い、日超医研究開発班予算での購入物品の変更が必要となり、承認を受けた。（委員長）
- ・ 動物実験の途中経過報告があった。血液については、90 回照射してもほとんど変化しない。次回の日超医学術集集会までには結果を出す予定。

- ・ 小委員会委員から、温度測定ファントム実験について進捗報告がなされた。温度測定
の誤差要因である viscous heating の説明がなされた。さらに、熱電対による温度計測
に関し、技術的議論がなされた。
5. 「超音波検査者が安全・快適で健康的に働くための指針」について（回覧資料）
- ・ 研究開発班代表からダイジェスト版に基づく説明があった。
 - ・ 検査者に対するアンケートを行った結果、何らかの症状・障害が技師を中心に起こって
いるとの訴えがあった。このような現状は、管理者もよく把握できていないため、指針
作成を行うこととした。指針作成は日超医研究開発班にて行い、検査者、管理者、メー
カーが注意すべきことをまとめた。
 - ・ 次回委員会までに、委員会としての対応方針を決める。
 - ・ 来年度は、本件を本委員会で検討するよう理事会より指示があった。それに伴い予算的
措置を行う。基本的には小委員会を新たに立ち上げて検討する予定。
6. 今年度事業報告、次年度事業計画・予算について（資料7）
- ・ 平成23年度事業報告について修正した。
7. 50周年記念事業について（資料8）
- ・ 各委員会の歴史に基づいた紹介をすることになり、本委員会にも執筆依頼があった。
 - ・ 前半に過去の経緯を、後半に現在の活動をまとめると形で執筆する方針とした。前半を
前田一雄先生（元鳥取大教授）に執筆依頼することとした。
8. その他
- ・ AFSUMB 報告。WFUMB ステートメントについて議論した。ARFI についても議論し
たが結論は出ず。次回ソウルで引き続き議論することとなった。（委員長）
 - ・ 次回の機器安全委員会は3月に開催予定。

以上